

1 現基本構想・基本計画の進捗状況など

基本構想：
「魅力ある学び」ビジョン
～概ね10年後のあるべき姿～

安心・安全で魅力的な学校環境の中で、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育てています。その中で、21世紀社会を担う子どもたちのたくましく生きる力が教育を通してはぐくまれています。

教員は研究・研修に励み質の高い授業に努め、子どもたちと向きあいながら個性をはぐくみ、魅力ある学校づくりが進んでいます。

生涯を通じて学び、教えあう環境が整っており、生涯学習によって「ひと」と「ひと」、「ひと」と「まち」をつなぐコミュニティが形成されています。

基本計画2025：
実施施策（11施策）
※施策指標は資料5-2参照

【将来の予測困難な時代を生きる力の育成】

- 1 教育施策の総合的な推進
- 2 確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進
- 3 幼・小・中学校の運営・支援
- 9 児童・生徒の健康増進

【多様な教育ニーズへの対応】

- 4 特別支援教育の充実
- 5 いじめ問題・不登校対策等の推進

【学校環境・連携体制の充実】

- 10 地域とともに歩む学校づくり
- 11 魅力ある学校づくり

【生涯学習社会の実現】

- 6 家庭教育の支援と青少年の健全育成
- 7 世代を超えた学習・学び合う活動の推進
- 8 読書活動の支援

2 国・都などの動向

1 将来の予測困難な時代を生きる力の育成

【国】
(1) 今後の教育政策の基本的な方針などを示した「第4期教育振興基本計画」閣議決定(R5年6月)【図表1】

(2) 教員の確保策や、多様な人材の確保などを示した『令和の日本型学校教育』を担う教師の人材確保・質向上プランの公表(R3年2月)

【都】
(1) 東京をめざす教育や、基軸となる3つの「学び」を示した「東京都教育大綱」策定(R3年3月)【図表2】
→区は次期板橋区教育ビジョンの策定の検討に着手。

2 多様な教育ニーズへの対応

【国】
(1) インクルーシブ教育を推進し、「通常学級に在籍する障害のある児童生徒の支援の在り方に関する検討報告」を公表(R5年6月)

(2) 不登校児童・生徒の学びの場の確保など、不登校により学びにアクセスできない子供ゼロをめざし、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」を公表(R5年3月)

【都】
(1) 「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」(R4年3月策定)において、インクルーシブ教育推進・医療的ケア児への支援充実などを明記。

3 学校環境・連携体制の充実

【国】
(1) コミュニティ・スクール導入を努力義務化(H29年)

(2) 部活動の質の向上、教職員の働き方改革を目的とし、部活動の地域移行に関する検討が進められている。

【都】
(1) 都の義務教育学校に占めるコミュニティ・スクールの割合は41.1%(R5年度)→区はR2年度に全区立小中学校に導入。
(2) 学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画(R6年3月改訂)により、部活動の地域連携・地域移行を進め、休日に教員が指導に携わる必要がない環境の構築を検討する。
→区は「いたばし地域クラブ」を立ち上げ、部活動改革に取り組む。

4 生涯学習社会の実現

【国】
(1) 第4期教育振興基本計画の基本的な方針に生涯学習政策も含まれ(項目3)、「生涯学習を通じた自己実現、地域社会の担い手育成」などが示される。

【都】
(1) 生涯学習政策として、「都立学校開放事業」、「子ども読書活動推進」などに取り組んでいる。

【区】
(1) 生涯学習の拠点となる生涯学習センター開設(H28年)
(2) 中央図書館をリニューアルオープンし、絵本のまち板橋の発信拠点をめざす。

3 政策分野における課題・区の様況

1 将来の予測困難な時代を生きる力の育成

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現
 - ① 個別最適な学び・協働的な学びの一体的充実
 - ② 学力は国・都と比較すると一定の向上が見られる【図表3】
- (2) 直接的・具体的な関わり・豊かな体験の欠如
 - ① デジタル技術進展により、疑似体験・間接体験が可能になったが、豊かな人間性・社会性を育む上で自分の目で見て体験をする直接・具体的な体験は重要。
 - ② 都市部は自然や遊び場が少なく、また核家族世帯が増加し、地域との繋がりが希薄化する傾向。
- (3) 幼児期における家庭教育支援の不足

2 多様な教育ニーズへの対応

- (1) 特別な支援や日本語指導が必要な児童・生徒の増加
 - ① 特別支援学級(知的)の児童・生徒が増加【図表4】
 - ② STEP UP教室(情緒)の児童・生徒が増加【図表5】
 - ③ 日本語指導が必要な児童・生徒の増加【図表6】
- (2) インクルーシブ教育システムの構築
- (3) 学校に行かない、行けない児童生徒の増加
 - ① 小中学校の不登校者数と割合の増加【図表7】
- (4) いじめの発生・深刻化
 - ① いじめの解消率(小中学校)の低下【図表8】
- (5) 子どもの権利に関する理解の不足
 - ① 教員の「子どもの権利」の認知度の低さ【図表9】

3 学校環境・連携体制の充実

- (1) 子どもが安心・安全に生活できる多様な居場所の確保
- (2) 施設の老朽化
- (3) 教員の過剰な業務負担、教員のメンタルヘルスマネジメント
 - ① 教職員の長時間労働・働く環境の改善【図表11】
- (4) 教員の継続的な専門的スキル向上機会の確保
- (5) 保護者や地域(大学やNPO含む)の学校運営参画
 - ① コミュニティ・スクールの体制強化・活用促進

4 生涯学習社会の実現

- (1) 「学びと実践」の機会と場の不足
 - ① リカレント教育
 - ② 生涯学習関連施設利用はコロナ以降、増加傾向【図表12】
- (2) 読書習慣と絵本文化の形成
 - ① 絵本のまち板橋の推進
 - ② 小中学生の不読率が上昇傾向【図表13】
 - ③ 図書貸与数は、他区と比較すると低い【図表14】
 - ④ 図書館利用(入館回数)はコロナを除くと微減【図表15】
- (3) 文化財の次世代への確実な継承
- (4) 大学やNPO等と連携の不足

5 その他の課題

- (1) 情報化の加速度的な進展に関する対応
 - ① ICTの活用、教育DX
- (2) 部活動の持続可能性
 - ① 部活動地域移行への対応が必要【図表10】

4 論点

政策分野における「あるべき姿」と「施策のあり方(方向性)」の事務局案

あるべき姿

“ひと(個人)”の視点
すべての子どもが自分らしく幸せに成長できるまち

“まち(地域)”の視点
社会変化に対応し、連携・協働しながら子どもの学びと成長を支えていくまち

“みらい(環境・仕組み)”の視点
多様な学びが人とまちをつなぎ、誰もが持続的に学び支え合うまち

施策のあり方(方向性)

これからの社会を生きる力の
基礎づくり・養成

子どもの可能性を伸ばす
多様な学びの推進

多様性を尊重した誰一人
取り残さない教育の推進

子どもに寄り添い安心・安全に
成長できる人や環境の整備

地域と人をつなぐ生涯学習の充実